

新県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議（第1回）次第

令和8年5月21日（木）午後2時15分～
静岡県庁別館9階特別第一会議室

1 開会挨拶

- (1) 静岡県副知事 塚本 秀綱
- (2) 静岡県教育委員会教育長 前澤 綾子

2 委員紹介

3 基本構想改定の経緯、県立中央図書館の現状・課題 等

4 事例発表

「近年の都道府県立図書館の潮流－背景と現況」【岡本委員】

5 意見交換

- (1) 現行図書館を取り巻く課題
- (2) 目指す姿、役割

6 閉会挨拶【静岡県教育委員会教育部長 山下 英作】

<資料>

- 資料1 静岡県立中央図書館基本構想改定の経緯
- 資料2 静岡県立中央図書館の現状・課題、基本構想改定のポイント
- 資料3 意見交換の論点

<別冊資料>

- ・近年の都道府県立図書館の潮流－背景と現況（岡本委員発表資料）
- ・書店の現場から見る電子書籍の普及状況（岩田委員資料）
- ・参考資料集（現構想、関連データ等）

新県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議 委員

役 職	氏 名
青山社中株式会社筆頭代表 CEO 福井県立大学客員教授	朝比奈 一郎
青山学院大学教育人間科学部教授	野末 俊比古
静岡文化芸術大学文化政策学部教授	林 左和子
袋井市生涯学習課長 (前 市立袋井図書館兼浅羽図書館長)	小久江 暁子
静岡図書館友の会代表	川村 美智
アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役	岡本 真
株式会社谷島屋静岡営業部部長	岩田 勝
静岡大学情報学部助教	伊 夢瑛

<事務局>

職 名	氏 名
静岡県教育委員会教育長	前澤 綾子
静岡県教育委員会教育部長	山下 英作
静岡県スポーツ・文化観光部部長代理	川口 茂則
静岡県スポーツ・文化観光部参事 (東静岡周辺整備担当)	小澤 和久
静岡県立中央図書館長	渡辺 賢一
静岡県教育委員会社会教育課 新図書館企画室長	小須賀 拓也

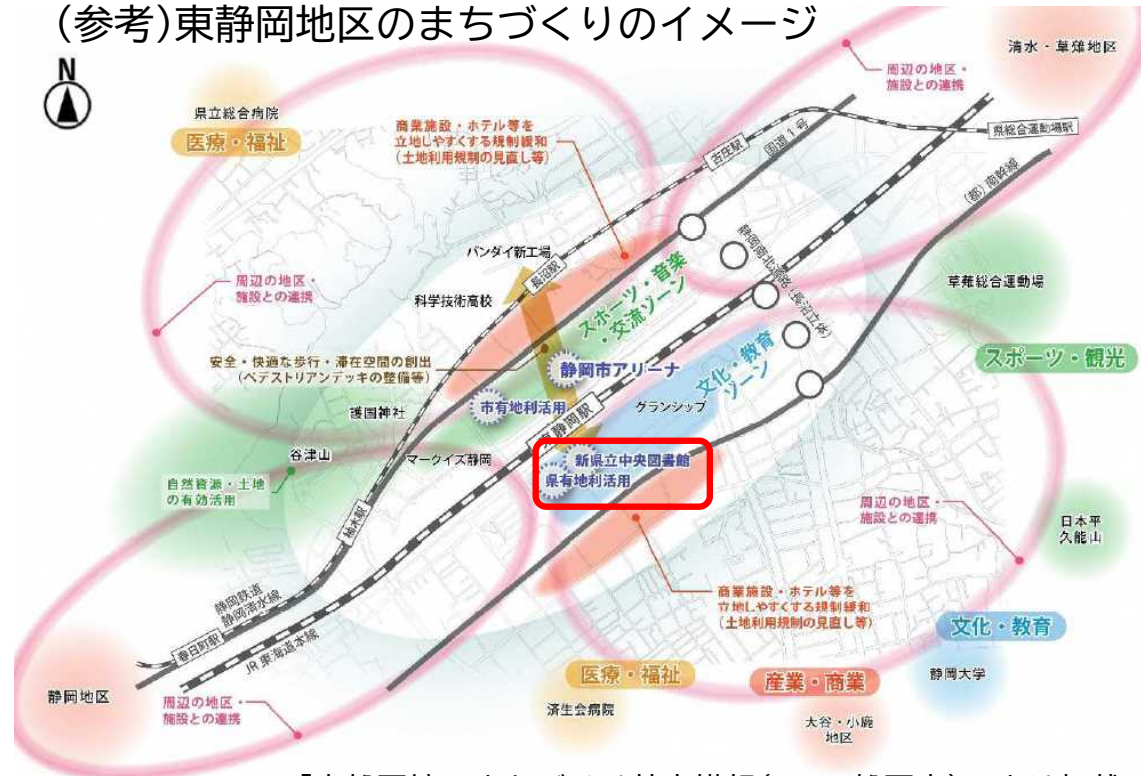
新県立中央図書館基本構想改定の経緯

- ・ 県立中央図書館の老朽化から、東静岡駅南口への整備を推進してきたが、建設工事の入札不調や、国の交付金の見通しが大きく変わったことに伴い、一旦立ち止まり、整備計画を見直す。(R7.6)
- ・ 部局横断の庁内プロジェクトチームにより定めた「整備見直しの方向性(R7.12)」を踏まえ、今回、基本構想(H30策定、R2改定)を改定し、新県立中央図書館の整備を再始動する。
- ・ 新県立図書館は静岡市の「東静岡地区まちづくり基本構想」の主要プロジェクトにも位置付けられ、「文化・スポーツによる感動体験と快適で安心できる暮らしの両立」への寄与が期待されている。

(参考)東静岡駅南口県有地



(参考)東静岡地区のまちづくりのイメージ



新県立中央図書館基本構想改定 有識者会議の開催計画

- ・ 令和8年9月頃までに4回程度開催し、基本構想改定案をまとめる。
- ・ 構想の改定内容のほか、個別テーマを設定して議論し、構想の具体性を高める。

<開催計画>

時期	主な協議事項	個別テーマ	備考
第1回 (5/21)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行図書館を取り巻く課題 ・ 目指す姿、役割 		
第2回 (6月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想改定骨子案 ・ 新図書館のコンセプト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町との連携 ・ 蔵書方針の見直し 	
第3回 (7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想改定素案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東静岡地区の特性を活かした交流機能 	⇒パブリックコメント実施
第4回 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想改定案 		

静岡県立中央図書館の現状・課題

県立図書館は県内の図書館行政の中核として県内図書館を振興している。

主な特徴

- ・ **静岡県の知の拠点** → 豊富で専門的な蔵書(約100万冊)
→ 地域資料や貴重書(葵文庫等)の収集・公開
- ・ **市町立図書館の支援** → 県内図書館相互の資料貸出の拠点
→ 児童書の全点収集 (子ども図書研究室)
→ 司書等への研修会の開催、運営相談 など



<運営の現状・課題>

◎ 本県の図書館設置率や年間図書貸出数は
全国平均を上回る (市町立図書館支援の成果)

△ 県立図書館の図書貸出数や来館者数は全国平均未滿、
静岡市外の来館者は限定的 (6割強が市内在住者)

項目	静岡県	全国平均
図書館設置率	97.1%	77.1%
年間図書貸出数(10万人当たり)	50.2万冊	45.3万冊
市区町村立図書館	49.9万冊	43.0万冊
県立図書館	0.3万冊	2.3万冊
県立図書館来館者数	15.6万人	32.4万人

<施設の現状>

建設から57年が経過し、施設・設備の
老朽化・狭隘化が著しく進行している。

所在地	静岡市駿河区谷田
建設年月	昭和44年3月
構造・ 延床面積	地上3階 地下1階 8,816㎡
蔵書数	975,103冊 (R7.3.31時点)
職員数	36人 (うち司書19人)

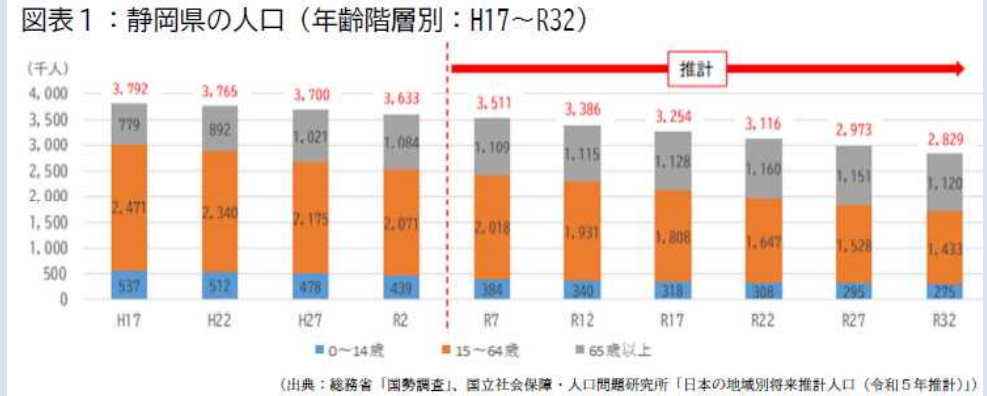


県民ニーズに応えた「ソフト・ハード両面の改善」が必要

静岡県立中央図書館を取り巻く環境変化①

○ 人口減少の加速、人口構造の変化

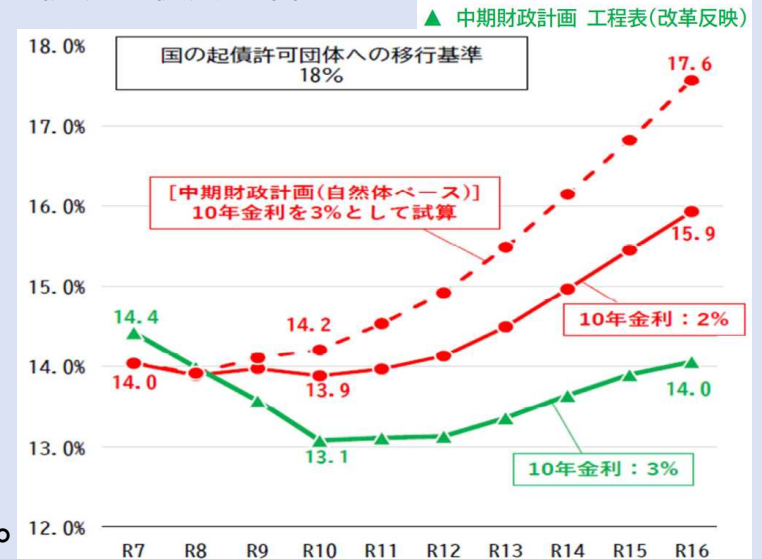
- ・ 本県の人口は平成19年をピークに減少
(H19 : 379.7万人 ⇒ R32推計 : 282.9万人)
- ・ 約3人に1人以上が高齢者となる見込み
- ・ 県内の在住外国人は115,642人で全国8番目



○ 建設物価高騰、県財政の悪化

- ・ 人手不足や物価高騰等に伴い新図書館の工事入札が不調(R6.11)
- ・ 本県の財政指標は年々悪化し、令和6年度決算では、実質公債費比率は41位、将来負担比率は42位と全国下位。
- ・ 令和8年度当初予算では、歳入歳出の収支差は285億円まで縮小したが、歳出・歳入の見直しの継続が必要。
- ・ 今後、物価・賃金・金利の上昇に伴う歳出増加リスクや、県税収入など歳入の不透明な状況が想定され、依然として厳しい財政状況。

中期財政計画 工程表に基づく財政指標の推移 (実質公債費比率)



「静岡県行政経営推進プラン（R8.3）」より

静岡県立中央図書館を取り巻く環境変化②

○ ウェルビーイングの重要性の高まり

- ・ 社会全体の不安感や不確実性が高まる中、近年、物質的な豊かさに加えて「県民が安心して、幸せを実感できること」の重要性が高まっている。



幸福度日本一の静岡県

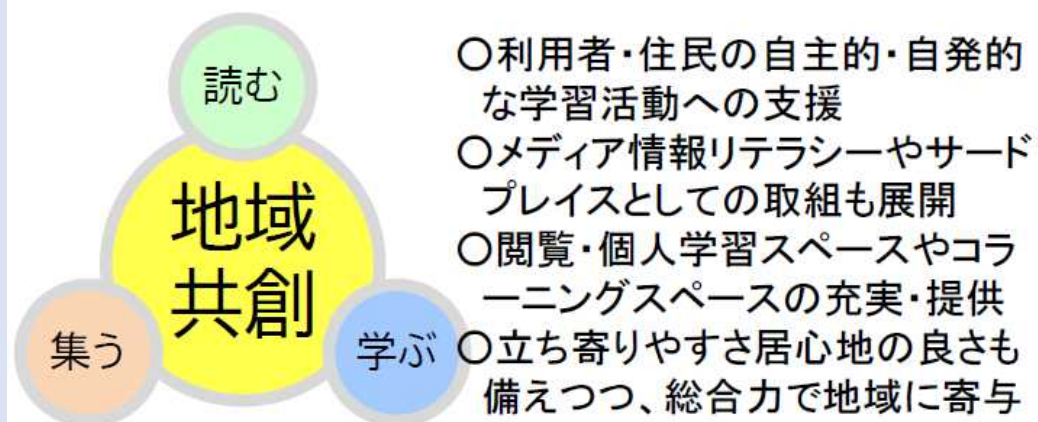
- ・ 令和8年2月策定の静岡県総合計画『しずおか ウェルビーイングプラン』では、「幸福度日本一の静岡県」を目指す姿に掲げ、県民が幸せを感じられる静岡県づくりを推進。

○ 図書館の役割の変化

- ・ 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（H24.12 文部科学省告示）」では、県立図書館は「資料提供等の直接的なサービス」、
「読書活動の振興」、「地域の情報拠点」のほか、
「市町立図書館の円滑な運営確保のための援助」
に努めることが求められている。
- ・ 国内では、市町村立図書館を中心に、図書館の役割・機能が多様化し、
特徴的な図書館が誕生している。

【図書館の今後の機能・役割】

「読む」×「集う」×「学ぶ」＝「新たな地域共創」へ



「図書館が拓く未来の学びと地域社会（報告書）【概要】」

7 (R8.3 図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議) より転載

静岡県立中央図書館を取り巻く環境変化③

○ 先端技術や電子書籍の普及・拡大

- ・ 図書館運営の生産性向上に寄与する先端技術の拡大や、電子書籍の普及など、コロナ禍を契機にデジタル化が急速に進展。
- ・ 電子書籍を利用する人の割合は、増加傾向にある一方、県立図書館が主な収集対象としている専門書等の電子書籍化は、現時点では限定的。

【自動化書庫】



【ロボットブックトラック】



【AIレファレンス】

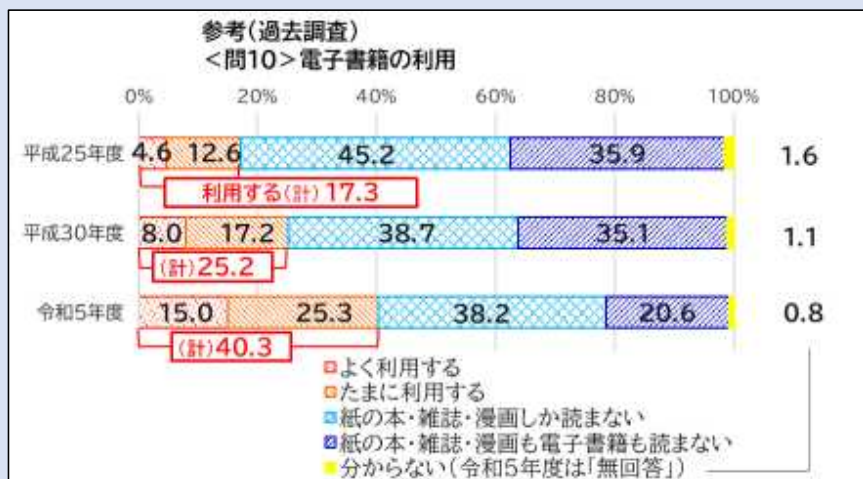


所蔵資料紹介型
AIチャットボット
(東京都立図書館)

電子書籍の利用状況

(文化庁「国語に関する世論調査」より引用)

※令和2年度から調査変更が変更されているため、平成25年度、30年度の数値は参考値



都道府県立図書館における電子書籍導入状況

(令和6年度末時点)

電子書籍資料数	自治体数	備考
10,000~	5	長野、京都、広島、高知、福岡
5,000~9,999	7	
2,500~4,999	9	静岡県(2,925点)
2,500未満	9	資料数未公表(1県)を含む
導入自治体数	30	

新県立中央図書館基本構想改定のポイント

検討の視点

- ・ 社会情勢の大きな変化を踏まえる（人口減少、デジタル化、物価高騰 等）
- ・ 「経済性」や「機能性」を重視する（市町立図書館との役割分担、先端技術の導入 等）
- ・ 関連計画との整合を図る（県総合計画(ウェルビーイングの視点)、東静岡地区のまちづくり)

<改定に当たって議論すべき主なポイント>

現計画		議論のポイント・方向性
基本構想	新図書館の在り方、役割、機能	<p>①県民の生涯学習・読書活動の拠点としての図書館</p> <p>②“ふじのくに”のことなら何でもわかる図書館</p> <p>③県内市町立図書館等を強力に支援する図書館</p> <p>④県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館</p>
	建設地	東静岡駅南口県有地
基本計画等	収蔵能力	200万冊
	施設規模	19,800㎡
	整備手法	県直営方式
	開館時期	令和10年度

基本的なコンセプトは踏まえつつ、
役割や機能を精選し、コンセプトを明確化

- ・ 県立図書館の役割は、「市町立図書館の補完・支援」を基本
- ・ 交流機能は、東静岡地区全体の機能を最適化する観点から見直し
- ・ 県有地全体（2.43ha）で最適な配置を検討
- ・ 書庫の分散化を含め検討
- ・ 150万冊程度を上限
- ・ 縮小（概算施設規模を設定）
- ・ （民間活力導入を軸に最適な整備手法を検討）
- ・ 令和10年代中頃～後半

- ・ 現行図書館の現状・課題や取り巻く環境変化にどのように対応するかを踏まえて、改善すべき課題として何が優先されるか。

○ 県立中央図書館の特徴の強化

- ・ 豊富な蔵書（専門的な資料、地域資料、貴重書、児童書 等）
- ・ 充実した市町立図書館支援（相互貸借等の拠点、司書等への研修会の開催 等）

○ 時代の変化への対応

- ・ 持続可能性の確保（人口減少、物価高騰、県の財政負担の軽減 等）
- ・ 図書館の役割の多様化（地域振興、サードプレイス、価値創造 等）
- ・ 電子書籍やA Iの進展（情報入手手段の多様化）

○ 現状の課題への対応

- ・ 施設の老朽化、狭隘化（紙資料の収蔵能力の確保）
- ・ 利用者の偏在（静岡市内在住者や中高年齢層が利用の中心）
- ・ 県内全域へのサービスの提供（インターネットやデジタルを活用したサービス等） など

意見交換の論点(2)【目指す姿、役割】

- ・ 県立図書館の目指す姿や担うべき役割として、市町立図書館の補完・支援を基本とした上で、県民全体へのサービスをどのように向上・効率化させるか。
- ・ 財源の制約がある中で、中長期的な運営コストの効率化（ハード、ソフト）をどのように図るか。また、その際の留意点は何か。

新県立中央図書館の目指す姿 (現基本構想ベース)

- ① 県民の生涯学習・読書活動の拠点としての図書館
- ② 静岡県のことなら何でもわかる図書館
- ③ **県内市町立図書館等を強力に支援する図書館**
- ④ 県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館

新県立中央図書館の役割・機能 (現基本構想・基本計画ベース)

- <基本サービス(直接サービス)>
資料収集・提供、レファレンスサービス 等
- <**市町支援**(間接サービス)>
協力貸出・相互貸借、司書等の研修・運営支援、情報ネットワーク整備(横断検索システム) 等
- <その他>
県史編纂資料の保存(歴史文化情報センター)、読書推進、交流機能 等